

PACCON 2018 (タイ・ハートヤイ) に参加して

徳島大学大学院薬科学教育部 柿内直哉

1. はじめに

2018年2月7日(水)から同9日(金)の3日間、タイのハートヤイ(ハジャイ; Hat Yai)で Pure and Applied Chemistry International Conference 2018 (PACCON 2018) が開催されました。ハートヤイはタイ南部の中心的都市で、高層ビルが立ち並び小バンコクとも呼ばれています。タイ北部に比べると雨季が長く、雨量も多いようですが、1月から3月までは乾季であるため、私が滞在している間はスクールなどに見舞われることはませんでした。

私はこれまでに海外旅行をしたことが無く不安でいっぱいでしたが、指導教員である田中先生の後を黙々とついて行き、なんとか無事に入国・トランジットをし、目的地に着くことができました。現地では研究発表や情報収集はもちろん、短時間ながら観光やショッピングも楽しむことができ、充実した3日間を過ごすことができました。

2. Prince of Songkla 大学と国際会議会場

PACCON 2018 を主催した Prince of Songkla 大学はタイ南部において最も古い歴史をもつ国立大学であり、タイにおける9研究大学にも指定されています。ハートヤイキャンパスをメインキャンパスとし、ハートヤイ以外にプーケットなどタイ国内に4キャンパスを有し、39の学部と4つの病院、40以上の研究センターなど多数の研究施設で構成されています。本国際会議は、故ブミポン前国王の三女である Her Royal Highness Princess Chulabhorn Mahidol 氏(写真1)の後援を受けて開催されました。Chulabhorn 氏は博学で、学術研究においても様々な業績を残されており、Chulabhorn Research Institute の所長も勤められています。



写真1. Dr. Her Royal Highness Princess Chulabhorn Mahidol



写真2. ICC Hat Yai

国際会議会場となった International Convention Center (ICC HatYai) (写真2)は、ハートヤイ国際空港から直線距離にして北東に約 10 km の位置にあり、前国王の王位継承 60 周年を記念して設立されたタイ南部最大の国際会議場です。

3. 国際会議の概要

本国際会議では、2016年に “The design and synthesis of molecular machines” でノーベル化学賞を受賞した James Fraser Stoddart 氏ほか2名による Plenary Lecture 3件のほか、招待講演 33 件、一般口頭 118 件、一般ポスター 562 件の発表がありました。私は研究成果を “High throughput titration by feedback-based flow ratiometry and its application to analyses of drugs in Japanese Pharmacopoeia” と題してポスターセッションで発表・質疑応答を行いました(写真3)。発表は練習通りにできましたが、質疑応答では全ての英語を聞き取ることができず、頭の中に浮かぶ日本語を英語で表現するこ

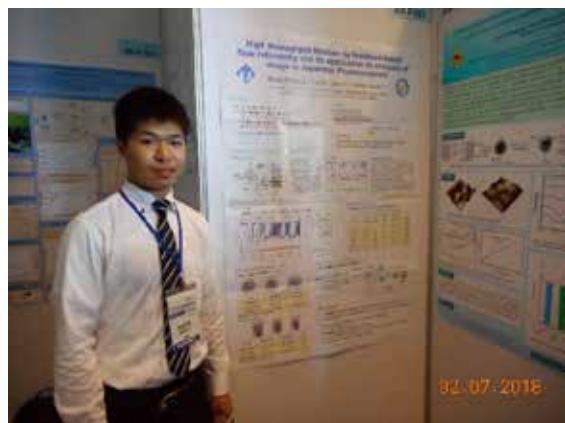


写真3. ポスター発表



写真 4. Welcome reception における余興

とにも大変苦労しました。一方で、愛知工大の大学院生が堂々とした口頭発表と見事な質疑応答を行っていたことに同じ学生として感銘を受けました。

会議 1 日目の夕刻より、Welcome reception が開催されました。食事は激辛のタイ料理を想像していましたが、実際は程よく辛い中華料理で、美味しい料理を前に話もはずみ、楽しいひとときを過ごしました。余興ではタイ舞踊が披露され（写真 4）、「指先の芸術」と呼ばれるだけあって指の繊細な動き、踊り手の表情や仮面、衣装、音楽を楽しむことができました。

4. 滞在したホテルと市街地散策

ハートヤイでは国際会議場から車で 5 分ほどの場所に位置する TR Rock Hill Hotel（写真 5）に 3 日間滞在しました。1 泊 1,100 バーツ（約 3,600 円）でしたが、外観と内観がモダンで、部屋の広さにも驚きました。朝食は品数が豊富で、毎朝美味しい食事をした後に会場へ行くことができました。

会議 2 日目の夜は田中先生とハートヤイ市街地を散策しました。Asean Trade Bazaar（写真 6）には T シャツや靴などの日用品が多く売っていました。近くの Greenway Night Market ではカラフルな飲食物が多くあり、ここではタイカレーやフライドチキンを食べました。1 日目の中華料理と



写真 5. TR Rock Hill Hotel



写真 6. Asean Trade Bazaar

は比較できないほど辛く、途中で食べるのを断念するほどでした。大型ショッピングモール（Tesco Lotus, Central Festival）でのショッピングも楽しむことができました。

最終日は、帰国便の搭乗時刻までの空き時間を利用してタイ国有鉄道南本線の駅であるハートヤイ駅（写真 7）周辺を散策しました。古びた建物が多くあり、平日だったせいか人通りもそれほど多くありませんでした。

5. おわりに

今回のような国際会議に参加したのは自分にとって初めての体験だったので、多くの貴重な刺激を受けました。海外の著名な研究者や優秀な学生との触れ合いを通じ、学ぶところが多くありました。特にアジアの若い研究者の積極性には感心させられました。近年、国際社会における日本の科学技術の相対的地位低下が報道されていますが、このような会議に出席しますと、それが人ごとではないように感じました。これを機に、研究はもちろん、コミュニケーション能力も一層高めるよう努力したいと思います。

最後に PACCON 2018 に参加する機会をいただきました指導教員の田中秀治教授と旅費の一部をご支援いただきました徳島大学薬学部に深く感謝いたします。



写真 7. ハートヤイ駅